

天橋立

日本三景という 3 か所の有名な景勝地があるが、そのうちの一つが京都にある天橋立である。京都あまのはしだてといえ、どちらかという伏見稲荷や清水寺などの神社仏閣に観光客が集まりがちな気もするが、天橋立だって、一応は有名な景勝地である。日本海側に



天橋立 海岸

あり、京都駅からも結構遠いがゆえ、アクセスは良くない。ちなみに日本三景というのは、宮城県の松島、広島県の宮島、そして京都府の天橋立の事を指す。やはり、ここ数年では広島宮島が 1 番人気といったところだろうか。近頃は、新日本三景と呼ばれるものもある様で、北海道の大沼、静岡の三保の松原、大分県やばけいの耶馬溪がそれに該当する様だ。後からこういったモノができてしまうと、もともとの「日本三景」のブランド力みたいなものが落ちてしまう気もする。たしかに日本は北の北海道から、南は沖縄まで景勝地の宝庫だから、3 つに絞るといふ事自体に無理があるのかもしれない。それでも天橋立は元祖日本三景なのだから、きっと何かしらの理由で別格なのだろう。



天橋立を歩く

この 3 か所が日本三景に選ばれている理由に関しては、江戸時代の儒学者、林鷺が峰ほうが著書『日本国事跡考』に 3 か所の事を書いた事が発端とされる。特にこれといった正式な審査などがあつたわけでもなく、あくまで昔の人間が独断で決めた 3 か所が、今もなおこうして日本三

景と言われているのだから感慨深い。ただ今回のこの天橋立に関しては、ネットでレビューを読んでみても、実際に訪れたという人達の評価があまりよろしくない。ここで前もって言うておくが、私は実際に天橋立に行った時点で「股覗き」というのを知らなかった。だから天橋立には行ったものの、「股覗き」はしていない。だから天橋立を語るうえで、もし股覗きが外せないものであったなら、これは事前に調べていなかった私のミスである。「股覗き」というのは、肩幅より広く足を開き、頭をしゃがめて、自分の股の間から天橋立を見る事をいう。そうすると龍が天に舞い上がるように見えるのだという。もしこれから天橋立に行く予定があるという人は、股覗きしてくるのをどうか忘れない様に。現地には、大きい駐車場もちょうど設備されており、私達が行った時も観光客はたくさんいた。駐車場から天橋立まで、歩いていく途中も道の両脇には食べ物屋が並んでおり、いかにも観光地といった印象を受けた。

ただ、もうここから先は何もない。ひたすら、松林の中を歩かされるといった感じである。特に何かがあるわけでもなく、ただひたすら松林を歩くのである。埼玉県またのぞの草加市に草加松原という国指定の名勝があるが、あれがもっと生い茂っているといった感じである。京都府は文化庁に対し、ここを世界遺産暫定一覧表記載資産候補として提案しているというから信じられない。古代から、奇勝・名勝と位置付けられており、平安時代には百人一首の小式部内侍の歌にも詠まれているという史実はある様だが、この程度で世界遺産に名乗りを挙げる



というのは、いくらなんでも無茶ではないだろうか。あくまで私個人の意見である。でも それぐらい本当に何もないのである。

あるデータによると観光客の数は京都市内を除けば、京都府で1番集客率が高い様である。京都市内を除いても、ここよりまだマシな場所はいくらでもありそうな気がする。それでも日本三景の1つなのだから、わかる人にはわかる何かがあるのかもしれない。

すぐ近くには、天橋立ビューランド

という施設があり、展望台やちょっとした遊園地が存在する。某旅行サイトの「行って良かった日本のテーマパークランキング」ではこの天橋立ビューランドがなんと9位に入っている。ちなみに10位は栃木の日



光江戸村である。この天橋立ビューランドにも行かなかったのですが、何がどうそんなに素晴らしいのか不明だが、きっと何か理由はあるのだろう。

そういえば、天橋立の松林の中にお寺があった。ここは智恩寺と呼ばれ、知恵ちおんじを授ける菩薩として、学業成就の祈願では結構有名な場所とのことである。

『三人寄れば文殊の知恵もんじゅ』なんてことわざもあるが、この文殊というのは文殊菩薩の事を指す。奈良にある安倍文殊、山形にある亀岡文殊、それからこの京都の切戸の文殊は三大文殊という風にも言われているらしい。日本三景の中に日本三大文殊の1つもあるというわけである。

この寺の境内で、ひときわ目を引くのが、おみくじである。ここのおみくじは、扇子の形をしていて、境内のあちらこちらの木に吊り下げられている。実に異様な風景である。きっと、受験生たちが合格祈願でお参りした際に、引いていっ



たのだろう。今はどうか知らないが、東京の神田明神には獅子舞がおみくじを引いてくれる機械があった。はじめてそれを引いた時、私はもう可笑おかしくなってしまった事をよく覚え



鉄湯船

ている。とにかく、こういうセンスが感じられるおみくじというのは非常に良いアイデアだと思うし、参拝客が引いていきたくなる気持ちもよく分かる。学問の祈願で、よく耳にするのは菅原道真を祀った天満宮だろうか。それから山口県の萩には、吉田松陰を祀った神社もあった。

東京の両国にある回向院えこういんというお寺には、あの有名な鼠小僧の墓があり、受験生がその墓石を削って、持ち帰るといふ風習があるみたいである。墓石を削って持ち帰るなんて、実に罰当たりな気もするが、鼠小僧の如く「(志望校に)スルリと入る」に肖あやかっての事だといふ。まあ、でも私が受験生でも流石さすがに墓石を削って、持って帰るなんて出来ない。

そういえば、この智恩寺の近くに変わった形の灯籠がある。その名も『智恩の輪灯籠』。もともとは船の安全のために建てられたが、智恩の輪を3回くぐれば文殊の知恵がつくという言い伝えもある。身体ごとくぐるのは駄目とのこと。さて、どうやってくぐるのだろうか、果たして答えは存在するのだろうか？わからない。

それから手水鉢として使われている、写真の鉢だが、これも元々は寺院の大湯屋おおゆやで僧しよくの施浴てつゆふねに用いる湯船の為に制作されたもの。名前は鉄湯船。どうして、このように手水鉢として使われるようになったのだろうか。わからない。

天橋立の松林からは、浜辺にも出られる。とはいえ、とくに海の眺めがすごく綺麗というわけでもない。正直、この程度なら静岡の三保の松原と大差ない。もし空が晴れていて、三保の松原から富士山が見えたなら、どちらに軍配があがるかなんて言うまでもない。



智恩の輪灯籠

『神の住み給う天への架け橋として多くの人の目を楽しませ、心を和ませ、体を癒してきた』といわれている天橋立。念を押して言うておくが、あくまで私の個人的な感想がつまらなかったというだけである。日本三景に選ばれている以上は、たしかに皆が一度は見に行くべきだと思う。ただ、今回色々と京都府の事を調べて思ったのが、京都市内以外でも、結構面白そうな場所があるという事である。私が今マークしているのは福知山市である。京都駅から電車で2時間もかかる様だが、福知山城や鬼の博物館などがある様である。もしかしたら天橋立と同様に、私にとっては期待外れな可能性もあるが、如何せん、行って見ないからには分からない。

ウェバー伊安